

江田神社：禊の神話

日本の創造神話はイザナギとイザナミという兄と妹の神を中心としていますが、2人が結ばれたことによって、日本列島の島々とそこに住まうさまざまな神々が生まれました。イザナミは火の神を産む際に亡くなり、悲しみに耐えかねた兄はイザナミを冥界から救い出そうとします。しかし、イザナギが妹のもとへ行くと、イザナミは「死者の国で作った食べ物を食べてしまったから、生者の世界には戻れない」と言います。イザナギは冥界の神々に追われながら逃げ出し、巨大な岩で2つの世界の間の通路を封印します。

冥府の汚れを洗い流そうと必死になったイザナギは、服を脱ぎ捨て、水に身を浸して体を清めます。この清めの結果、神道の三大神と呼ばれる太陽神の天照、月の神であり夜の主であるツクヨミ、そして海と嵐の神であるスサノオなど、さまざまな神が誕生します。

日本最古の歴史書である古事記には、イザナギの禊は日向（現在の宮崎県）で行われたと記されています。8世紀に学者たちが、当時の首都であった奈良にて初めて創造神話をまとめた際には、遠く南東に面した日向は、昇る太陽、ひいては神々の領域に最も近い場所とされていたため、学者たちは日向を選んだのでしょう。禊は、常緑樹の生い茂る平原が続く河口で行われたとされています。この場所は、現実世界の特定の場所ではなく、永遠の命を象徴する場所でしたが、後に日向の様々な場所と結びついていきました。イザナギとイザナミを祀る江田神社周辺もその1つです。